



**長谷川 壽一 (HASEGAWA Toshikazu)**

東京大学大学院総合文化研究科 教授

東京大学文学部心理学専修課程卒業。  
同大学院人文科学研究科心理学専攻修士課程修了。  
同大学院博士課程単位取得退学。  
文学博士。

---

国際協力事業団派遣専門家 (タンザニア連合共和国天然資源省野生動物調査官)、東京大学教養学部助手 (心理学)、帝京大学文学部助教授、東京大学教養学部 (大学院総合文化研究科) 助教授を経て、1999 年 4 月より東京大学大学院総合文化研究科 (広域科学専攻生命環境科学系認知行動科学) 教授。

2010～2012 年度 総合文化研究科長・教養学部長、2013～2014 年度 東京大学 理事・副学長。

また、21 世紀 COE プログラム「心とことば：進化認知科学的展開」拠点リーダ、日本学会議心理学・教育学委員会委員長、新学術領域「共感性の進化・神経基盤」代表、日本心理学会理事長、東京大学運動会理事長、東京大学出版会理事長なども歴任。

専門は人間行動進化学、行動生態学、進化心理学で、進化生物学の理論に立脚したヒトを含む動物の行動や生態を研究している。

主な著書に『思春期学』(監修、東京大学出版会、2015)、『言語と生物学』(編集、朝倉出版、2010)、『ソーシャルブレインズ 自己と他者を認知する脳』(開一夫共編、東京大学出版会、2009)、『こころと言葉 進化と認知科学のアプローチ』(C.ラマール、伊藤たかね共編、東京大学出版会、2008)、『進化と人間行動』(長谷川真理子共編、東京大学出版会、2000)、『心の進化 人間性の起源をもとめて』(松沢哲郎共編、岩波書店、2000) など。翻訳書に『病気はなぜ、あるのか 進化医学による新しい理解』(ランドルフ・M.ネシー、ジョージ・C.ウィリアムズ著、長谷川真理子、青木千里共訳、新曜社 2001)、『オランウータンとともに 失われゆくエデンの園から』(ビルーテ・M.F.ガルディカス著、杉浦秀樹、斉藤千映美共訳、新曜社、1999)、『人が人を殺すとき 進化でその謎をとく』(マーティン・デイリー、マーゴ・ウィルソン著、長谷川真理子共訳、新思索社、1999)、『人間はどこまでチンパンジーか? 人類進化の栄光と翳り』(ジャレド・ダイヤモンド著、長谷川真理子共訳、新曜社、1999) など他多数。他に日本語、英語の論文多数。